

保護者の皆様

令和6年10月11日

川崎市立東大島小学校
校長 結城 俊一

令和6年度 川崎市学習状況調査、全国学力・学習状況調査 結果の概要と今後の取組について

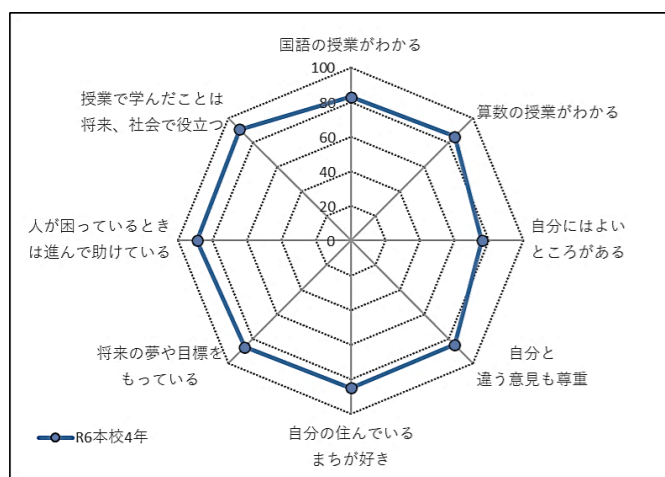
日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。4月9日（火）に行いました4～6年生対象の川崎市学習状況調査の結果と、4月18日（木）に行いました6年生対象の全国学力・学習状況調査の結果をご報告します。本校では学校教育目標（育成を目指す資質・能力、目指す児童像等）の実現に向け、日々の教育活動に取り組んでおり、今後は本調査結果を生かした取組をさらに進めてまいります。なお、本調査によって測定できるのは児童の実態の一部であり、学校における教育活動の一側面です。本資料につきましては、本校の教育活動の成果と課題を把握するための一つの指標としてお考えください。また取組の様子は、今後の学校だよりや学年だより、学校報告会や説明会等でもお伝えします。

学校教育目標（育成を目指す資質・能力、目指す児童像等）

学校教育目標 **明るく たくましい生き方のできる 人間の育成**

- 友達とともに学習するよさを大切にして、互いに高め合い、学び合う力（生きて働く知識・技能の習得）
- 他者を意識して、自分の考えを深め、伝える力（未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成）
- 夢や目標を実現しようとする力・自己肯定感（学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養）

令和6年度 川崎市学習状況調査 4年生



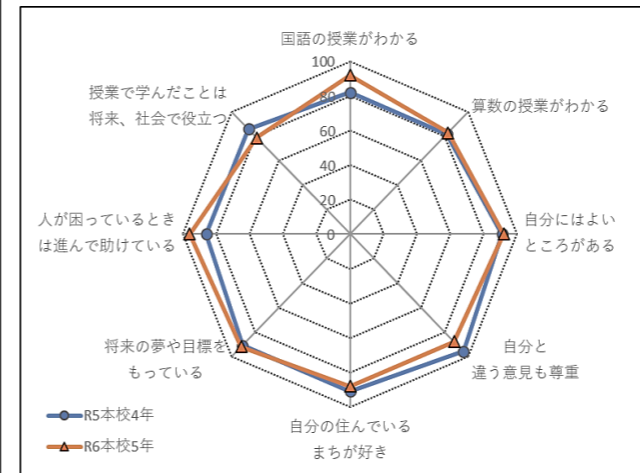
	国語 知識・技能	算数 知識・技能
R6本校4年	61	58
R6全体4年	78	74

・「授業がわかる」に関する設問では、国語と算数ともに80ポイントをこえる回答でした。これからも、「わかる」ことで学ぶ楽しさが味わえるような魅力ある授業の工夫を続けていきたいと思ひます。

・「自分にはよいところがある」は76ポイントでした。自己分析をしたり、互いにのよさを伝え合ったりする時間を設け、自分のよさに気付いていけるようにしていきます。また、個別のめあてを立てたり、道徳の時間の充実を図ったりすることを通して、自己肯定感を高めていこうと思ひます。また、児童一人一人を具体的に見取り、児童が成功体験を味わえるような活動を大切に、よさを価値付け、認める機会を逃さないようにしていきます。

・「算数 知識・技能」は、58ポイントでした。児童の基礎学力の定着を図るために、ぐんぐんタイムを活用して反復練習や苦手とする課題を再指導する時間を設けるなどの取組を進めていきます。次年度は、5ポイントアップを目指します。

令和6年度 川崎市学習状況調査 5年生



	国語 知識・技能	算数 知識・技能
R6本校5年	45	50
R6全体5年	69	67

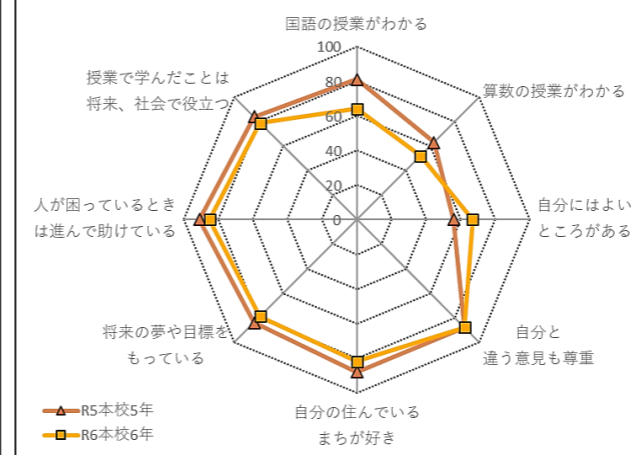
・「授業がわかる」に関する設問では、国語と算数ともに、おおむねよい状況と考えています。これまでの取組を継続し、児童が「わかった」「できた」とさらに実感できる授業改善を目指していきます。

・「人が困っているときは進んで助けている」は、96ポイントと高い回答率でした。引き続き、協働的な活動を多く取り入れ、児童が互いの関わりを大切にできるよう努めます。

・「授業で学んだことは将来、社会で役立つ」は5ポイント下がりました。生活の事例や体験活動を通して学びを具体化し、学んだことが生活の中で生きて働く力となるような授業展開を目指します。

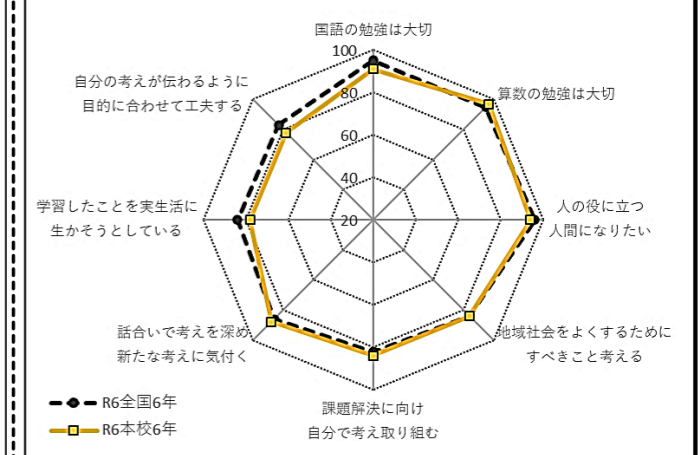
・「知識・技能」では、国語・算数ともに文章の読解能力に難しさを感じている分析結果が見えてきました。読解能力向上のために、話し方やスピーチ、読書活動を多く取り入れ、対話や読む学習の充実を図っていきます。次年度は、5ポイントアップを目指します。

令和6年度 川崎市学習状況調査 6年生



	国語 知識・技能	算数 知識・技能
R6本校6年	50	49
R6全体6年	65	65

全国学力・学習状況調査 6年生



・「授業がわかる」の設問では、国語は64ポイント、算数は52ポイントと昨年度よりポイントが下がる結果となりました。学年が進むと教科の専門性が増し、難度が上がるため、学習の理解に困難があることが分かります。児童の理解を深められるように、個々の実態把握に努め、目的に応じた有効な学習形態を設定したり、思考を深める問い返しや課題を工夫したりするなど、授業改善を進めていきます。

・全国調査「話し合いで考えを深め、新たな考えに気付く」は全国平均を上回りました。話し合う場面や対話的な学習形態を多く取り入れ、協働的な活動を継続的に取り組んだ成果と考えます。しかし、全国調査「学習したことを実生活にいかそうとしている」は全国平均を下回っています。「知識・技能」の定着を図りながら、学んだことを意識的に使えるよう、学習したことを生かす場面を意図的につくったり、身につけた力を異なる教科の学習と結びつけたりするなど、横断的に行っていくことを意識した声かけや活動を重視していきます。